

MACROCOSM



CONTENTS

- 平成23年度「国際青年育成交流」事業
 - 2 国際青年交流会議概要
 - 3 基調講演(崙信彦氏)
 - 9 国際青年交流会議
 - 11 地方プログラム
- 国際理解教育支援プログラム

マクロコズム



参加青年と懇談される皇太子殿下



平成23年度「国際青年育成交流」事業 国際青年交流会議 International Youth Conference

日程：平成23年7月7日（木）～9日（土）

場所：ANAインターコンチネンタルホテル東京
国立オリンピック記念青少年総合センター

国際青年交流会議は、平成6年度に皇太子同妃両殿下の御成婚を記念し開始された「国際青年育成交流」事業の一環として開催される青年たちのための会議です。

この会議は、「国際青年育成交流」事業により海外に派遣される日本青年及び海外から日本に招へいされた外国青年等が一堂に会し、地球規模の諸問題、青年国際交流の在り方、事業参加後の連携の在り方等について討論を行うことにより、青年国際交流の一層の発展に資することを目的として実施されています。

今年度は、開会式の後、ジャーナリストの嶋信彦氏による「若者がつくる未来と世界」と題する基調講演があり、その後、懇談会を経て、「青年の社会参加～地域への貢献を考える～」をテーマにしたグループ討論(分科会)が行われました。



開会式での福山哲郎内閣官房副長官あいさつ



グループ討論(分科会)でのディスカッション



基調講演後の質疑応答で質問する参加青年



グループ討論(分科会)

国際青年交流会議 基調講演 「若者がつくる未来と世界」

平成23年7月7日(木)

ANAインターコンチネンタルホテル東京

ジャーナリスト 舘 信彦氏

今日は7月7日で、日本では七夕のお祝いをしています。七夕とは、織姫と彦星という二つの星が一年に一度出会うことを祝う日です。笹の葉に願いごとを書いておくと、その願いが通じると言われています。ここ数日、ホテルや学校等様々な場所で、七夕の願いごとを書いたカードを見かけます。「好きな人と一緒になりますように」、「学校に合格しますように」等の個人的な願いもありますが、今年は東日本大震災があり、原発の事故がありましたので、「早く大震災から立ち直れますように」とか「世界の人からいろいろな援助をいただき、ありがとうございます」といったメッセージもあります。今、日本は、大変な状況に置かれています。原発の事故等で世界の皆様にご迷惑やご心配をおかけしたことについては改めてお詫び申し上げたいと思います。また、150を超える国や機関から日本に対して様々な支援や励ましをいただいたことに心から感謝申し上げます。

日本は今、単なる危機ではなく、「国難」に見舞われています。それは、この間の大震災で、東北の東日本沿岸は500キロに及ぶ津波が来て、1万5,000人以上の方が亡くなり、約5,000の方が行方不明となり、避難生活をされる方が10万人もおられるからです。原発の事故のために、自分の住んでいたところからやむを得ず他の場所へ移動しなければならない人も大勢います。また、農業、漁業、工場も大変な被害にあっています。ですから、この国難をどのように乗り越えるかが、今の日本にとって大きな関心事であります。

日本が途上国から先進国の仲間入りをしたのは、ここ150年くらいのことですが、僕は、今回の国難はこの150年間で3回目のものであ



ろうと思います。これまで2回の国難をどのように切り抜けてきたかをお話ししたいと思います。

最初の「国難」

最初の国難は19世紀の後半、1860年代のことでした。日本は大陸と離れているため、外国から侵略されたという歴史がありませんでした。日本は「鎖国」といって、外国とあまり交渉を持たずに、二千年以上にわたって日本独自の文化を育み、独立した国としてやってきました。1860年代までの260年以上、江戸時代は徳川家という将軍の下に運営されていました。徳川将軍の下には、大名といわれるお殿様が200以上いたと思われれます。

1860年代になって、突然、欧米の列強といわれる国々が軍艦で日本にやって来て、開国を迫りました。当時の日本には素晴らしい文化がありましたが、外国が持つ

ていた蒸気機関等の新しい文明の機械は持っていませんでした。そのため、日本が欧米と戦争をすれば、負けてしまい、植民地になる可能性もありました。

国内では、意見が二つに分かれました。開国して外国と付き合った方がよいという意見と、外国とは付き合わないで、日本独特の文化を戦っても守るべきだという意見に分かれ、260数年間続いた徳川時代が大揺れに揺れたのです。やがて、外国勢力を前に国の意見が一つにまとまらなくてよいのかという議論がおこり、徳川政権を倒して新しい



政権を作った方がよいという意見が出てきました。このような時期に活躍したのが、武士の中でも地位の低い下級武士といわれた坂本竜馬、中岡慎太郎、高杉晋作、西郷隆盛などです。また、幕府の官僚であった勝海舟や各大名の下にいた多勢の若者も藩を飛び出して、日本はこうあるべきだと説いて回りました。260年も続いていた徳川幕府がまさに崩壊しようとしていた国難の時期に、実際に日本国を動かしたのは、20代から30代で、武士の中でも地位の低い人たち、また、彼らを助けた町民、商人でした。日本は開国すべきだと大名を説き、徳川幕府を説き、1868年、明治という新しい政府を作ったのです。

徳川時代は、武士、農民、商人といった身分に分けられた封建制度の時代でしたが、明治政府は近代国家に衣替えしました。将軍がいなくなり、議員を選挙で選び、国家の軍隊や教育制度を作り、民主主義制度を作り、国を挙げて貿易をするという今までとは全く違った国家の形態を作りました。この動きの中核を担っていた最初の人々は、反対派に狙われて、殺害されることさえありました。しかし、彼らは、封建時代を終わらせて、新しい近代国家を作らなければ日本は世界に遅れてしまう、そのためなら自分は亡くなくてもいいんだという覚悟でのぞんでいったのです。明治時代になると、その思想を受け継いだ30代、40代の人々が日本国の首相になり、明治政府を確立させていきます。第一の国難と言われた時期に、いわゆる欧米風の近代国家が作り上げられていったのです。

やがて、日本は1894年に中国と戦い、1905年に

はロシアとも戦争します。戦争に勝利した日本政府は今後どのように生きるべきかというスローガンを掲げます。一つは「富国強兵」です。「富国」とは国を豊かにすること、「強兵」とは、軍隊を強くすることです。もう一つは、「殖産興業」です。産業を興して工業国になるということです。このようにして、日本はヨーロッパやアメリカ合衆国等の先進国に追いつき、追い越そうと努力し続けてきました。これが、封建時代から近代国家を作る過程の一つの歴史、国難を乗り越えた歴史でした。この動きの中心になったのが若者であったことが大きな特色です。

第二の国難—廃墟からの復興

その後、日本は、軍事力を強化しすぎて謙虚さを失い、アジアの国々を侵略しました。これも一つの引き金となって、第二次世界大戦を引き起こしたのです。日本は第二次世界大戦で敗北し、国土はまさに瓦礫の山と化し、何百万人もの国民が死に、ご存知のように原子爆弾を落とされて、廃墟になったのです。私は戦争の直前の1942年に生まれましたから、ほんのわずかですけれども戦争のことを覚えています。空から爆弾が落ちてくる光景もなんとなく覚えています。それ以上に覚えているのは、戦争が終わった後、平和にはなったものの、食べものも住むところも失われたことです。戦後10年ぐらいは苦しい時期が続きました。

戦後、戦争を指導、協力した軍人や高級官僚、知識人、経済界の人たちは全員追放され、戦争責任を追究されなかった20代から40代の人々が、経済や教育を国家





の中心に据えて日本を立ち上がらせました。科学と技術で国を立て直し、輸出によって外貨を稼ごうと、「科学技術立国」と「輸出立国」の二つをスローガンにして、戦後、一生懸命努力しました。1945年当時、廃墟と化した日本でしたが、それから23年後の1968年に、日本はGDPで世界第2位になりました。今年の初めに中国に抜かれましたが、約40数年間にわたってアメリカに次ぐGDP第2位の国だったのです。戦後は、二度と戦争はしないという平和憲法を作り、民主主義の教育を目指して、教育制度も熱心に作り変えました。この時期に奮闘した20代から40代前半の人々が今日の日本を作ったと考えてよいと思います。

第三の国難

そして今、第三の国難であると言われていています。おそらく史上最大の大地震で、日本は史上最大の犠牲者を出しました。科学技術立国を標榜していた国で原発事故が起きてしまったことに対して、日本だけでなく世界にも大変なショックを与えました。今後、いかに立ち直るかが、今の日本の大きな課題になっています。原子力発電所に関しては、反省すべきことは、全部明るみに出して、それを全世界に明らかにする。この事故を契機に、もし今後原子力発電を維持するのであれば、



世界一の安全基準を作れるところまで、徹底的に反省をして、それを世界に示すことが、世界に対する日本の責任ではないかと思います。

同時に嬉しいこともありました。今回、150を超える国や国際機関からいろいろな援助をいただきました。こんなに日本のことを考えてくれる国々があったのかということに改めて感動しました。国際社会とのネットワーク、友人関係をきちんと持っているということが、本当に困難な時には重要だということを知ったのではないかと思います。

過去2回の国難を乗り越えられた理由

日本がなぜ2回の国難を乗り越えてこられたのか、そして今、三回目の国難を乗り越えようとしているし、僕は乗り越えられると思います。その理由として、日本の歴史があるように思います。日本は2千数百年の歴史を持つ、農業を中心とする国です。農業国であることに起因する特質に重要なものがあったと僕は思います。まず、日本人は非常に我慢強い資質を持つようになりました。一生懸命にお米を作っても、秋に台風が来れば、お米がダメになってしまいます。しかし、そこで、ヤケクソになって何もしないのではなく、また来年がある、来年がんばればいいのだと我慢強く対処できる国民です。台風が来ても生き残れるように、お米を蓄えておこうという貯蓄精神も身につけています。お米は一年かけて作るわけですから、勤勉に真面目に努力をしないとイケません。この勤勉さ、真面目さも日本人の特色になっています。僕らは小さい頃から「お百姓さんが一年間かけて汗水流して一生懸命作ったお米だから、一粒でも残したらもったいないし、申し訳ない。だから、残さずに食べなさい」とよく言われました。もったいないことをするなと教えられました。この「もったいない」という言葉は、ノーベル平和賞受賞者のフンガリ・マータイさんが世界に広めてくれましたけれども、日本の中にはこの精神が何千年も生きてきたのです。

同時に、日本では、集団主義も特徴です。これにはまずいところもありますが、コミュニティの中でお互いに助け合う、例えば、台風の時にお互い



に助け合って畑を守るといった精神も根付いています。大陸の牧畜文化は、一箇所にずっととどまることがなく、捕る獲物がなくなれば、獲物のいるところへ移動していきますが、日本の農業文化はずっと一箇所にどまりながら、そこを一生懸命開拓したり、田畑を広げたり、工夫をしたりしています。

今、世界では和食が高い評価を受けていますが、日本全国统一された和食文化があるわけではなく、各県、各地方がそれぞれに工夫した和食を作っているわけです。そういうものが現代になって統合されて、世界でも有名な和食文化ができたのではないかと思います。文化を高めるために皆が工夫をしているのです。

また、重要なこととして、日本は教育を非常に大事にしました。江戸時代には、武士たちは藩の学校で学びました。農民や町民たちは寺子屋で字や様々な知識を学びました。その他、私塾といって、町の先生たちが学校を開いてそこへ来る人たちにいろいろなことを教えました。これらが積み重なって、いろいろな思想、文化、教育のあり方が議論されて、これまでの国難を乗り越えられたのではないかと思います。日本という国は鎖国をしていましたが、その中で一生懸命物を考え、物を作り、工夫をしながら生きてきたのです。

江戸時代は、今のリサイクル社会のモデルと言われています。江戸の人々の中には、個人宅を一軒一軒回って、お金を払って、排泄物を樽に汲み取り、その排泄物を農家に売り、農家はその排泄物を肥やしにして作物やお米を作っていました。化学肥料はありませんから、非常に有機的で健康によい作物ができました。このようなリサイクルの社会が江戸時代にあったということが今になって注目されています。学校では、日本の社会はなかなか面白い生き方をしてきたということをおぼわけて。そして、これが次の世代に教えられて、日本人の新しいライフスタイルを作り上げていくとい

うことを今まで繰り返してきました。

自然に対する謙虚さを失う

ところが、このシステムは明治維新以降、崩れ始めます。もともと日本人は、自然を敬い、自然に対して謙虚な国民で、この姿勢が、日本を形作ってきたのです。しかし、アメリカやヨーロッパ等、機械や文明が発達した国と競争していくには、我々も機械や文明をどんどん取り入れなければいけないと考え、人口が増えてきたので、食料をもっと作らなければいけないが、人の排泄物を肥料にしているだけではとても足りないから、化学肥料を使わなければならないと考えるなどしていわゆる発展を遂げていきました。機械や技術や科学が発達してくると、自然は、科学や技術や文明によって乗り越えられるものだと考えるようになりました。蒸気機関を作れば遠くまで行ける。空を飛ぶこともできる。化学肥料を使えば、今まで以上に効果があつてたくさんの食物を作ることができる。文明ってなんてすばらしいのだろうと思っているうちに、自然に対する謙虚さを失っていきました。

今回の原発の事故は、人間が原子力をコントロールできると思込んだためかもしれません。我々にはコントロールできない科学技術があるんだと謙虚に反省しなければなりません。また、インターネットも人間が完全にコントロールできる文明の機械なのかどうかまだ疑問があります。例えば、日本の有名な企業から、何千万人分という名簿が流出してしまい、何千万人もの人々の財産が危険にさらされ、プライバシーが暴かれてしまいました。人間と技術の折り合いが完全についておらず、人間が完全に使いこなせるものになっていないことを謙虚に認めながら使っていくことが大事です。そういう意味で言うと、今回の大震災が起きたときに、もう一度、日本人の大きな伝統であっ





た「自然」に対し、謙虚になって考え直すべきだと反省させられました。

人の生き方を変える事件

アメリカ合衆国の9.11の事件によって文明が変わったと、当時、言われました。戦争は、国同士がするものですが、この戦争は、国とテロリストとの戦争でした。このような戦争は、いったいどうやって終わらせたらよいのかよく分かりませんでした。アメリカはテロとの戦いに懸命になって、イラクやアフガニスタンにどんどん派兵し、軍事費をどんどん使いました。そのため、財政赤字が非常に大きくなって、アメリカの経済はもがき苦しんでいるのに、さらに、リーマンショックという100年に一度の経済危機が降りかかりました。アメリカは、経済は回復すると言っていますが、いまだに回復しないのは、100年に一度の危機がまだ終わっていないからです。また、アメリカは、借金をしてでも消費をする、消費好きな国民であると言われていましたが、最近のアメリカの国民は消費を控えるようになりました。つまり、9.11も大きな転換期だったのです。世界の戦争のあり方を変え、アメリカ人の生き方を変える契機になったのです。

それから10年経って、3.11の日本の大震災が起きました。この大震災も日本人の生き方を変え、もう少し自然に対する謙虚さを培うべきだという世界中の人々へのメッセージにもなっています。その証拠に、ドイツとイタリアは原子力発電所を作らないという決定までしました。ですから、10年おきに大きな時代の変化がやって来ているという感じがします。我々は常に世界に対して、神経、あるいは頭、目を研ぎ澄ませて、時代がどのように大きく転換しているかを見つめる必要があります。

もう一度復興するために

今、日本は大震災で大変なことになっていますが、僕はあまり悲観していません。それは先ほども言ったように、日本は2000年以上の歴史の中で、文化を育み、教育を育み、いろいろなことをしてきましたから、もう一度、知恵を出せるのではないかと思うからです。これまでは、科学や技術などの振興にあまりにも期待しすぎましたが、今回の事故で、自然に対して謙虚にならなければならないという気持ちになっています。このようなことが、日本をもう一度立ち直らせる大きな背景になると思います。

東北の中小企業のすばらしさに開眼する

今回、東北地方の多くの中小企業が津波や地震で被災しました。その結果、実は、東北の中小企業が非常にすばらしい部品をたくさん作っていたということを痛感させられました。日本の大企業は、このようなすばらしい部品を集めて組み立てているので、よい自動車、よいテレビ、よいコンピューターをつくることができているのです。よい部品がなければ、決してよい製品をつくることはできません。そのよい部品を作っていたのは東北だったということを改めて知ったのです。我々は、東北に零細企業がたくさんあるということは知っていました。そのような中小企業は、なんとなく「遅れた」というイメージがあったかもしれませんが、しかし、そのような中小企業が被災したことで、大企業がこれまで100%生産していたものが50%しか生産できなくなったのです。東北の中小企業や零細企業が作っていたよい部品がまったくなくなって、組み立てができなくなったからです。日本の大企業だけではなく、世界の大企業も、実は、東北のそのような部品に頼っていたことが明らかになりました。東北地方の人々は、控えめで地味ではありましたが、実は、





世界のサプライチェーン、部品を供給する大切な鎖の一環に入っていたのです。

日本の明治以降の歴史から学ぶ

日本は今、少子高齢化の問題に直面しています。この課題を解決することが、これから高齢化社会がやって来る国のモデルにもなると思います。また、これから新興国としてどんどん成長していく国の皆さんにお伝えしたいのは、日本の明治以降の歴史を少し勉強していただきたいということです。そこには必ず、皆さんのお国の参考になる経験や材料があると思います。その中には成功の歴史だけではなくて失敗の歴史もあります。失敗の歴史は、同じ過ちをしないように受け継いでいただければありがたいと思います。

友人の大切さ

僕が今回の震災で感じたのは、知人だけではなく、友人が大事だということです。知人とは、損得だとか、ビジネスだとか、お金だとか技術だとか、そういう関係で付き合う人のことです。知人の関係は、もちろん重要です。でも、知人の関係以上にもっと重要なのが、友人の関係です。仕事で付き合っている人はたくさんいる。しかし、本当の友人は少ない。こういう人は、日本人にも非常に多いのです。あるいは、世界にも多いのかもしれませんが。友人を作るにはどうすればよいのか。それはコミュニティーなどを大事にすることです。会社のコミュニティー、町のコミュニティー、村のコミュニティー、学校時代のコミュニティーなどを大事にし、その中で自分が奉仕をすることです。例えば、コミュニティーの中

で会合を開こうという時に、自分が進んで幹事になってみることです。これが奉仕の精神です。幹事をしたことがある人は分かると思いますが、会合の連絡をして、出欠の返事をしてこない人がいますね。お店を予約しようにも何人分の予約をしていいか分からなくて困ります。最終的に30人に決まったので、お店の予約をしたら、当日、突然キャンセルをする人がいる。そうすると、キャンセルした人の分のお金をどうするか考えなくてはなりません。皆が幹事をしたことがあれば、このような幹事の苦勞も分かるわけです。ですから、皆さんが奉仕をするという精神を持つことが大事です。

また、人間の品性も重要です。本当の友人を作るには、人格や人徳がないと、日本では友人ができないと思います。知人を作ると同時に、是非友人を作っていたきたいと思います。友人を作るためには、コミュニティーの精神、奉仕の精神、自分の品性を磨くことが、非常に大事です。そういう意味では、皆さんは世界の様々な国からやって来て、この一週間で初めて顔を合わせて、最初は知人の関係だったと思いますが、この2、3週間の研修で、是非友人の関係を作っていたきたいと思います。友人の関係を作れば、今後すばらしいネットワークができます。今回の震災の被災地で、他の国に姉妹都市を持っているところには、たくさんの人たちから支援が来ています。国や市町村だけをあてにするのではなく、自分が友人の関係を持っている、その友人を通じていろいろなネットワークが広がります。このような機会はめったにありませんから、是非知人だけではなく、友人を作ることも、今回の集まりのテーマにさせていただけたらと思います。御清聴ありがとうございました。



国際青年交流会議

「国際青年交流会議」では、ドミニカ共和国、エストニア共和国、ヨルダン・ハシェミット王国、ラオス人民民主共和国から招へいされた48名の外国参加青年と、9月に同4か国に派遣される日本参加青年等46名が、テーマ毎に三つのコース(文化、教育、環境)に分かれ、7月7日(木)～9日(土)に2泊3日の合宿形式のディスカッション・プログラムに参加しました。また、7月6日(水)には、外国参加青年のみ、テーマ毎の課題別視察に出かけ、日本の現状への理解を深めました。

日付	プログラム内容
7月6日(水)	課題別視察(外国参加青年のみ)
7月7日(木)	国際青年交流会議(基調講演、懇談会、分科会)
7月8日(金)	国際青年交流会議(課題別視察、ディスカッション)
7月9日(土)	国際青年交流会議(ディスカッション、成果発表会、昼食交流会、訪問国の青年との交流)

文化コース テーマ：「伝統文化の持つ力とその継承」



裏千家東京出張所にて茶道体験をし、日本の伝統文化を学ぶ



初めての茶道体験に真剣に取り組む参加青年



自国文化について発表する日本参加青年



財団法人講道館にて、柔道の歴史等について学んだ後、実際に柔道体験をする(7月6日、外国参加青年のみ)



小グループに分かれてディスカッションをする

教育コース テーマ：「青年が基礎教育年代(小・中学校)におけるリーダーシップの育成に貢献するためには、どのような取組が可能か」



石井晴子アドバイザー(左から2人目)のアドバイスを聞きながらディスカッションを進める参加青年



日本赤十字社(青少年赤十字)を訪れる(7月6日、外国参加青年のみ)



話し合った内容を相談して模造紙にまとめる



東京学芸大学附属世田谷小学校を訪れ、児童と交流する参加青年

環境コース テーマ：「100年後の『豊かさ』」



佐藤太アドバイザー(右端)の農園を訪れ、大豆の種まきを体験する
(7月6日、外国参加青年のみ)



中央防波堤埋立処分場を訪れ、ゴミ処理についての説明を聴く



小グループに分かれてディスカッションをする



グループで話し合った内容を発表する

コース共通活動(7月9日)



文化コースによる成果発表



成果発表会閉会式であいさつするヨルダンのナショナル・リーダー



昼食交流会で自国文化を紹介するドミニカ共和国参加青年



昼食交流会時に設置されたラオス展示ブース

外国参加青年は、7月11日(月)～19日(火)、地方プログラムに参加しました。ヨルダン・ハシェミット王国とラオス人民民主共和国の合計24名の青年は、函館市と滋賀県を訪れ、ドミニカ共和国とエストニア共和国の合計24名の青年は、広島県と鳥取県を訪問しました。函館市と広島県では、2泊3日の合宿型ディスカッション・プログラムが行われ、地元青年と交流しました。滋賀県と鳥取県では、参加青年はホストファミリーに温かく迎えられ、日本の一般家庭での生活を体験しました。また、全ての県市で表敬訪問や施設訪問が実施され、文化や歴史、産業等を学ぶ機会となりました。

函館市と滋賀県

日付	プログラム内容
7月11日(月)	函館市到着、白尻水産実験場でのエコ漁業の視察、歓迎夕食会
7月12日(火)	五稜郭タワー、函館ベイエリア視察、公立ほこだて未来大学訪問
7月13日(水)	函館市企画部長表敬訪問、合宿型ディスカッション・プログラム1日目
7月14日(木)	合宿型ディスカッション・プログラム2日目
7月15日(金)	合宿型ディスカッション・プログラム3日目 滋賀県へ移動、滋賀県副知事表敬訪問、歓迎夕食会
7月16日(土)	近江八幡の水郷めぐり、ダイハツ工業(株) 竜王工場視察、藍染体験、ホストファミリーとのマッチング
7月17日(日)	ホームステイ
7月18日(月)	ホームステイ、歓送パーティー
7月19日(火)	滋賀県発、東京着

函館市



渡辺宏身函館市企画部長を表敬訪問する



白尻水産実験場にてエコ漁業の取組を視察する



合宿型ディスカッション・プログラムで話し合った内容を発表する

滋賀県



米田耕一郎滋賀県副知事を表敬訪問する



藍染(紺喜染織)を体験する



ホストファミリーと交流する外国参加青年

鳥取県



平井伸治鳥取県知事(第1列目左から4人目)を表敬訪問する

広島県



城納一昭広島県副知事を表敬訪問する



あおや和紙工房を訪れ、ちぎり絵体験をする



手焼きもみじ饅頭の体験をする



ホストファミリーと交流する外国参加青年



合宿型ディスカッション・プログラムで門藤農園を訪れ、合鴨農法を学ぶ

広島県と鳥取県

日付	主なプログラム
7月11日(月)	広島県到着、広島県副知事表敬訪問、歓迎会
7月12日(火)	厳島神社視察、マツダミュージアム、マツダスタジアム視察
7月13日(水)	合宿型ディスカッション・プログラム1日目
7月14日(木)	合宿型ディスカッション・プログラム2日目
7月15日(金)	合宿型ディスカッション・プログラム3日目 鳥取県へ移動、鳥取県知事表敬訪問
7月16日(土)	あおや和紙工房視察とちぎり絵体験、わらべ館視察、 ホストファミリー交流会
7月17日(日)	ホームステイ
7月18日(月)	ホームステイ、歓送パーティー
7月19日(火)	鳥取県発、東京着

(財)青少年国際交流推進センター 国際理解教育支援プログラム

7月1日(金)、東京都大田区立道塚小学校にて、国際理解教育支援プログラムが実施され、英国、ドミニカ共和国、ブラジル、ウズベキスタン、モンゴル、スリランカからの合計9名の講師が派遣されました。

全校児童約600名との全体交流会では、様々な国出身の講師に児童たちは驚き、各講師の話に熱心に耳を傾けていました。講師とのじゃんけんゲームは大変盛り上がりしました。

その後、6年生の3クラスに分かれ、児童が英語で書道・折り紙・茶道について説明し、講師が日本文化を体験するというかたちで授業が行われました。茶道では、小グループになって講師との自由な意見交換も行われました。

和気あいあいとした雰囲気の中でプログラムは成功裏に終了しました。

派遣された講師

国名	名前
英国	Mr. Andrew J Barnes
ドミニカ共和国	Mr. Giancarlos Troncoso
ブラジル	Mr. Ricardo Machado
ブラジル	Mr. Leonardo Kajioka Nardon
ウズベキスタン	Ms. Feruza Khaidarov
モンゴル	Mr. Amarbayasgalan Amarsanaa
モンゴル	Ms. Tumendemberel Soyol-Erdene
モンゴル	Ms. Batsaikhan Odontungalag
スリランカ	Mr. Navarajacumaran Navaratnam

プログラム

時間	内容
10:15-10:45	校長先生による小学校の概要説明
10:45-11:30	全体交流会 校長先生の歓迎あいさつ 児童の楽器演奏 児童代表の歓迎あいさつ 講師紹介(各講師の簡単なスピーチ・文化紹介) ゲーム 伝統芸能(三味線の演奏) 校歌斉唱
11:30-12:20	6年生(3クラス)に分かれて活動 英語で書道・折り紙・茶道体験
12:20-13:10	4~6年生の各クラスで給食
13:30-14:00	振り返り



山本恵美子校長先生(右から3人目)と派遣された講師

校長先生の感想

本校は、国際理解教育の推進として、毎年「国際交流の会」を実施しています。今回、(財)青少年国際交流推進センターの協力により、実施することができました。

日本の伝統文化を知ってもらいたい、伝えたいという子供たちの心からのおもてなしに講師の皆様もたくさんの笑顔で応えて下さいました。この「英語が通じた!」という喜びが、次の外国語活動の授業の励みになります。

「英語」という言葉の壁を越え、外国の方々と交流を図り、心を通わすことができたことは、子供たちにとって大きな心の財産となりました。

～子供たちの感想～(一部抜粋)

- ・「私は、お茶の飲み方を講師に少しだけ英語で説明しました。すると、いきなり質問され、びっくりしましたが、『おいしいです!』と言われたときは、本当に嬉しかったです」
- ・「今年も年に一回の国際交流の会が、とても楽しかったです」

◆プログラムの実施をご希望の方は・・・

(財)青少年国際交流推進センターでは、小・中・高校、大学だけでなく、自治体等からの依頼にも応じています。当プログラムの実施を希望する方は、講師派遣、プログラムのコーディネート等の相談に応じますので、実施希望日、実施場所等を記載の上、お気軽に以下の問い合わせ先までご連絡ください。

国際理解教育支援プログラム担当：田中 佐代子・大久保 正美
e-mail: iuesp@iyeo.or.jp、TEL：03-3249-0767
FAX：03-3639-2436



児童が英語で講師に書道の説明をする



講師との自由な意見交換を楽しむ児童たち

青少年国際交流事業事後活動推進大会
日本青年国際交流機構第27回全国大会
第18回青少年国際交流全国フォーラム
和歌山大会



日程：平成23年11月26日(土)～27日(日)
会場：和歌山マリーナシティロイヤルバインズホテル
〒641-0014 和歌山県和歌山市毛見1517番地 TEL：073-448-1111

テーマ：つなぐ、育む、輝く命～紀の国から宙へ

和歌山県には太平洋に広がる約650kmの海岸線と奥深い雄大な山があります。紀伊半島の南部「熊野」には京都からつながる熊野古道を通じて文化が運ばれ、また、誰をも招き入れる自然信仰があります。空海によって開かれた高野山は、仏教文化の聖地としてゆるぎない地位を保ち続け、「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界文化遺産という高い評価を受けました。そして世界に繋がる海は120年以上前に難破したトルコ軍艦の船員を救助したことから今も友好を受け継いでいます。

今回、和歌山での開催にあたって、十七条憲法の第一条である「和を以て貴しと為す」の「和」の理念を基に、その言葉の持っている意味を掘り下げ、大会テーマを「つなぐ、育む、輝く命～紀の国から宙へ」と設定しました。また、基調講演や分科会を通じて、現在・過去・未来をつなぎ、人と人をつなぎ、「人」と「絆」を育み、お互いを理解することで参加者の今後の活動や生活がより充実したものとなり、一人ひとりが輝けるきっかけとなることを目指しています。なお、「紀の国から宙へ」には、参加者の豊かな国際的経験や多様な視点が和歌山に集い交わることで新たな価値を生み、その成果が大きく広がっていくようにという壮大な思いを込めています。

プログラム

第1日目 11月26日(土)	
12:30	受付
13:30	開会式
14:00~15:15	基調講演 荒川祐二氏 (NPO法人 世界護美推進連盟理事長) 「半ケツとゴミ拾い～たった一人から全世界10万人へ～」
15:30~17:30	分科会 八つの分科会を設定
18:00	チェックイン
19:00	懇談会
第2日目 11月27日(日)	
9:00	表彰式
9:30	各都道府県及び個人の事後活動紹介
11:00~11:15	閉会式

日本・ASEAN文化交流プログラム(平成23年10月31日(月))

来場者募集
先着150名

◆◆東南アジアと出逢う◆◆

今年度で38回目を迎える「東南アジア青年の船」事業^(※1)の日本国内活動の一環として実施される「日本・ASEANユースリーダーズサミット」^(※2)において、東南アジア諸国連合(ASEAN)10か国と日本の青年たちが自国の文化を紹介します。パフォーマンスや展示により各国の文化を一度に楽しむことができる、絶好の機会です。



(※1) 内閣府青年国際交流事業「東南アジア青年の船」事業
<http://www8.cao.go.jp/youth/kouryu/data/sseayp.html> を参照ください。

(※2) 「日本・ASEANユースリーダーズサミット」
日本とASEAN各国及びASEANとの連携を強化するために、より多くの青年が日本とASEAN各国を結ぶネットワークに参加することを目的として、ディスカッション及び文化交流を中心とした合宿型交流プログラムです。駐日ASEAN各国大使館及び日本アセアンセンターと連携して実施されます。

- 日時：平成23年10月31日(月) 13:30-17:45
- 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
*小田急線 参宮橋駅下車 徒歩7分
*東京メトロ千代田線 代々木公園駅下車 徒歩10分
- 参加費：無料
- 申込締切：10月10日(月) (先着150名)
- 申し込み方法：以下のウェブサイト、E-mail、FAXのいずれかでお申し込みください。
URL: <http://www.centrye.org/event/2011/yjs/culture/>
E-mail: yjs@iyeo.or.jp FAX: 03-3639-2436
- お問い合わせ：
(財)青少年国際交流推進センター 担当：浮田・熊坂・水谷
TEL: 03-3249-0767

今月の表紙

IYEOがスリランカ教育支援プログラム(One More Child Goes To School)で支援しているスリランカ南部マータラ県ハクマナ地区の小学校の児童が描きました。



編集後記

ジャーナリスト高信彦氏による国際青年交流会議基調講演の講演録はいかがでしたか。毎年、聴講を楽しみにしている基調講演ですが、今年は、直接講演を聴く機会に恵まれず、録音から原稿をおこしました。原稿整理をしながら、日本が過去に困難を二度乗り越えた際に、大きな役割を果たしたのが20代～30代の青年であったという点に感銘を受けました。(ふ)

MACROCOSM 8月号 vol.95

2011年8月31日発行
編集 マクロコスム編集委員会
発行 (財)青少年国際交流推進センター
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町
2-35-14 東京海苔会館6階
TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436
e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp
URL: <http://www.centrye.org/> (CENTERYE)
<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)
編集協力 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)
日本青年国際交流機構(IYEO)
定価 200円 [本体191円]
印刷所 株式会社デックス
TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270



「ココロ花咲く、ステキな旅を。」

支店名	電話番号
札幌支店	011-221-0821
青森支店	017-723-3671
盛岡支店	019-651-8800
仙台支店	022-263-3232
秋田支店	018-866-0109
山形支店	023-641-4141
福島支店	024-523-4451
水戸支店	029-224-6627
宇都宮支店	028-636-7761
高崎支店	027-325-3201
さいたま支店	048-640-1009
千葉支店	043-243-0109
ストリームライン 新宿支店	03-5348-3500
横浜支店	045-326-1120
甲府支店	055-222-0381
新潟支店	025-243-1515
富山支店	076-431-7638
金沢支店	076-233-0109
福井支店	0776-23-2800
長野支店	026-226-4315
岐阜支店	058-263-4657
静岡支店	054-255-1919
名古屋支店	052-232-1091

支店名	電話番号
三重支店	059-221-3331
滋賀支店	077-565-0109
京都支店	075-361-5351
大阪支社第2営業部	06-6344-3927
神戸支店	078-221-1090
奈良支店	0742-23-2371
和歌山支店	073-425-3211
鳥取支店	0857-23-2001
松江支店	0852-21-5425
岡山支店	086-225-1746
広島支店	082-545-1090
新山口支店	083-972-5454
徳島支店	088-622-8991
高松支店	087-851-6666
松山支店	089-941-9231
高知支店	088-825-0109
福岡支店	092-739-0010
佐賀支店	0952-26-1131
長崎支店	095-827-4151
熊本支店	096-354-5765
大分支店	097-538-1091
宮崎支店	0985-25-6111
鹿児島支店	099-257-0109
沖縄支店	098-868-8822

国際会議から出張まで、
お問合せは、上記支店またはお近くのトップツアー各支店へ

お客様満足度100%+αを追求するサービスマインド。

お客様の立場になる「想像力」、プラスアルファを創る「創造力」。

50年の実績と豊富な情報力を駆使して

高品質・高付加価値の商品とサービスを提供するトップツアー株式会社。

私たちは、旅を通じて新しい出会いと感動を創出する

[旅行インテリジェンス企業]です。



東急観光が社名を変えました。

トップツアー株式会社

官公庁長官登録旅行業第38号 ●日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿木村屋ビル16階

<http://www.toptour.co.jp>

国際旅行事業部 ストリームライン新宿支店

03-5348-3500



そのにっぽんでは、
大人が楽しく生きている。



にっぽん丸撮影：三好和義

4日間 田辺花火と小豆島クルーズ

2011年 **9月30日(金)～10月3日(月)** 横浜発～横浜着

旅行代金(大人お一人様・消費税込み) **120,000円～600,000円**

横浜発着・週末利用のらくらくクルーズ。洋上から望む花火と、瀬戸内の島をめぐる。10/1は田辺沖にて停泊し、船上から田辺花火大会を観覧いただきます。映画「八日目の蝉」の舞台ともなった小豆島は、二十四の瞳映画村や寒霞溪、オリーブ公園など見どころ満載。秋の週末をにっぽん丸でお楽しみください。



小豆島/オリーブ公園

5日間 名古屋発着 小笠原クルーズ

2011年 **10月15日(土)～10月19日(水)** 名古屋発～名古屋着

旅行代金(大人お一人様・消費税込み) **159,000円～800,000円**

世界自然遺産への登録を果たした小笠原へ、名古屋から直行できるのが魅力。亜熱帯の海洋島・小笠原諸島は、船でしか訪れることができません。雄大な大自然、紺青の美しい海、緑あふれる島々をのんびりと満喫ください。

エンターテイナー **尾崎 亜美(シンガーソングライター)**



小笠原諸島/南島湖池 ©TCVB

4日間 神戸発着 富士・鎌倉クルーズ

2011年 **10月24日(月)～10月27日(木)** 神戸発～神戸着

旅行代金(大人お一人様・消費税込み) **119,000円～598,000円**

初秋の爽やかな秋の風を感じながらクルージング。清水からは富士山の眺めが美しい朝霧高原と浅間大社参拝へ、横須賀からは鶴岡八幡宮参拝や小町通りの散策にも便利な鎌倉市街地までの送迎バスを運行します。

エンターテイナー **LEGEND(レジェンド)(オペラユニット)**



鎌倉/鶴岡八幡宮

掲載のツアーは、この広告でのお申し込みを受け付けておりません。資料(パンフレット)を出社下記店舗までご請求ください。 ※このほかにも各種クルーズがございます。お気軽にお問合せください。 ※掲載の写真はイメージです。

商船三井客船

お問い合わせ・パンフレットのご請求は商船三井客船クルーズデスク



0120-791-211

<http://www.nipponmaru.jp>



ボンド保証会員

T107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三井ビル5F